

# 東北地方 1か月予報

(1月27日から2月26日までの天候見通し)

平成19年1月26日  
仙台管区気象台発表

## <特に注意を要する事項>

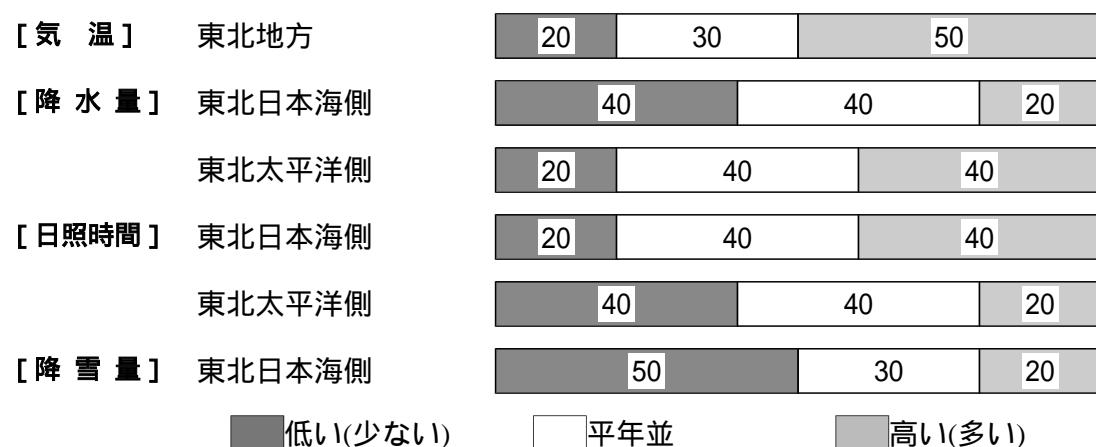
平年に比べて気温が高く、東北日本海側の降雪量は少ないでしょう。

## <予想される向こう1か月の天候>

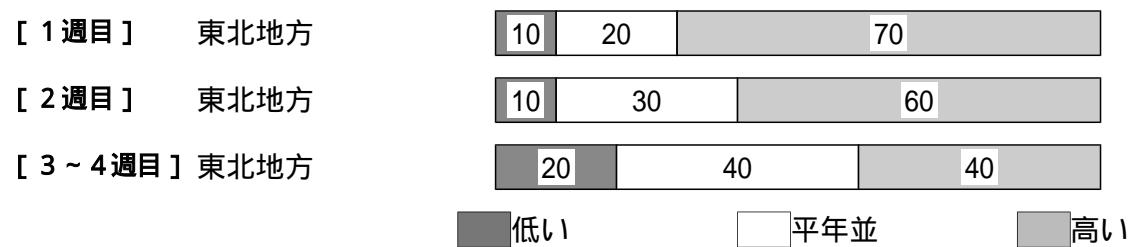
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。  
冬型の気圧配置は長続きせず、天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側では平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側では平年に比べて曇りや雪または雨の日が多いでしょう。  
平均気温は、高い確率が50%です。降水量は、東北日本海側では平年並または少ない確率とともに40%、東北太平洋側では平年並または多い確率とともに40%です。日照時間は、東北日本海側では平年並または多い確率とともに40%、東北太平洋側では平年並または少ない確率とともに40%です。東北日本海側の降雪量は少ない確率が50%です。

週別の気温は、1週目は高い確率が70%、2週目は高い確率が60%、3~4週目は平年並または高い確率がともに40%です。

## <向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



## <気温経過の各階級の確率(%)>



## <予報の対象期間>

1か月	:	1月27日(土) ~ 2月26日(月)
1週目	:	1月27日(土) ~ 2月 2日(金)
2週目	:	2月 3日(土) ~ 2月 9日(金)
3~4週目	:	2月10日(土) ~ 2月23日(金)

**<次回発表予定等>**

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は2月2日

3か月予報：2月22日(木) 14時

暖候期予報：2月22日(木) 14時

## <参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と1週目、2週目、3～4週目の平均気温)

	気温 ( )	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	降雪量 (cm)	気温( )		
					1週目	2週目	3～4週目
青森	-1.3	130.8	76.7	236	-2.0	-1.7	-1.1
深浦	-0.5	84.0	49.7	133	-1.1	-0.8	-0.2
むつ	-1.7	92.1	97.7	189	-2.2	-2.1	-1.5
八戸	-1.1	56.3	144.7	116	-1.8	-1.5	-0.8
秋田	0.0	99.9	67.4	133	-0.7	-0.4	0.2
盛岡	-1.8	56.2	140.7	109	-2.6	-2.3	-1.5
大船渡	0.7	57.3	156.7	31	0.1	0.4	1.0
宮古	0.1	79.4	168.6	75	-0.5	-0.3	0.3
仙台	1.5	48.3	166.6	38	0.9	1.2	1.9
石巻	0.7	43.8	180.4	24	0.0	0.3	1.0
山形	-0.4	74.9	106.1	167	-1.0	-0.7	-0.1
新庄	-1.1	161.8	58.5	274	-1.7	-1.4	-0.9
酒田	1.3	127.3	61.3	136	0.8	1.0	1.5
福島	1.6	50.8	158.9	76	0.9	1.2	1.9
若松	-0.5	74.8	103.4	180	-1.2	-0.9	-0.3
白河	0.3	39.5	170.2	56	-0.4	-0.1	0.6
小名浜	3.5	60.5	194.2	0	3.0	3.2	3.8

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差( )	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.3～+0.5	79～107	95～104	82～111
東北日本海側	-0.3～+0.5	91～107	91～109	90～109
東北太平洋側	-0.3～+0.6	66～112	99～103	76～113

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.6～+0.9	-0.6～+0.8	-0.5～+0.8
東北日本海側	-0.6～+0.8	-0.6～+0.8	-0.5～+0.7
東北太平洋側	-0.6～+0.9	-0.6～+0.9	-0.4～+0.7

## <参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

# 東北地方 1か月予報解説資料

平成19年1月26日 仙台管区気象台

## 1. 出現の可能性が最も大きい天候

### 向こう1か月(1月27日~2月26日) :

冬型の気圧配置は長続きせず、天気は数日の周期で変わるものでしょう。東北日本海側では平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側では平年に比べて曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

平均気温は高い確率が50%です。

### 1週目(1月27日~2月2日) :

東北日本海側では気圧の谷や寒気の影響で雪や雨の日が多いでしょう。東北太平洋側でも、期間のはじめと終わりに気圧の谷の影響で雪や雨の日がある見込みです。

なお、29日は低気圧の影響で東北太平洋側を中心に荒れた天気となるおそれがあります。

平均気温は高い確率が70%です。

### 2週目(2月3日~2月9日) :

弱い冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高い確率が60%です。

### 3~4週目(2月10日~2月23日) :

冬型の気圧配置は長続きせず、天気は数日の周期で変わるものでしょう。東北日本海側では平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側では平年に比べて曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

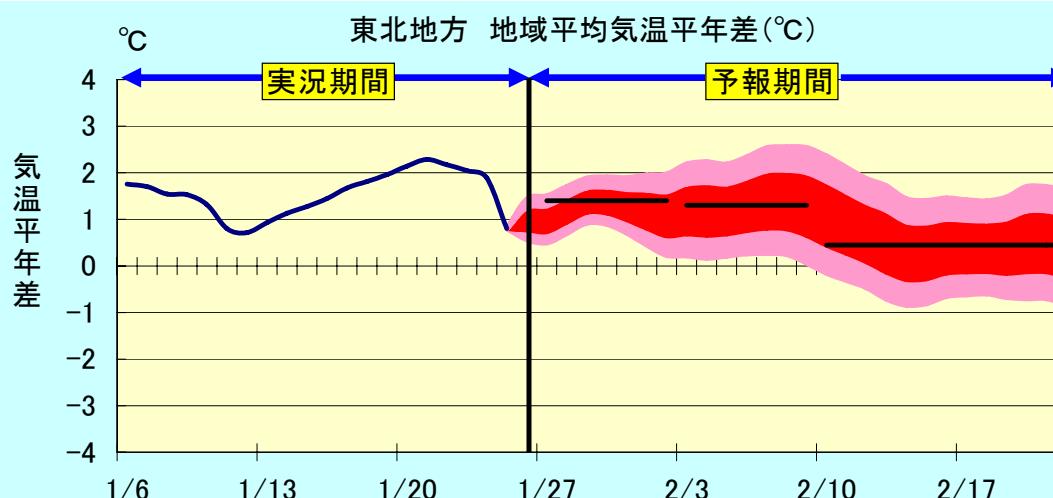
平均気温は平年並または高い確率とともに40%です。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	5.8日	1.3日	1.3日	3.2日
東北太平洋側	18.2日	4.8日	4.7日	8.7日

## 2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目、2週目はともに平年を上回り、3~4週目は平年並付近の予想となっている。なお、数値予報の信頼度は大きい。



\* 実況期間(図の左側)の太い実線: 東北地方の平均気温平年差の実況値。(7日平均値)

\* 予報期間(図の右側)には7日平均気温の予測に対する信頼の程度が40%の幅(濃い赤の範囲)と信頼の程度が70%の幅(濃い赤と薄い赤の範囲)を表示

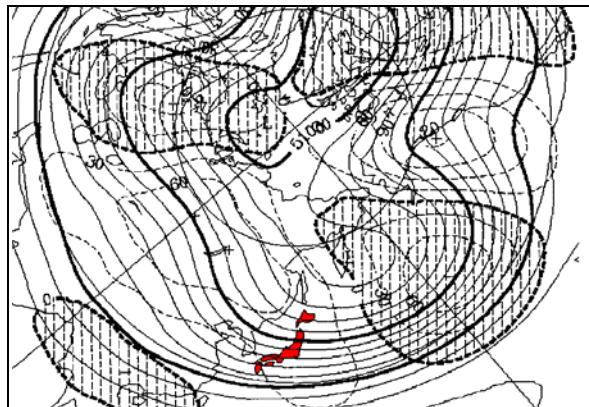
\* 水平な3本の実線: 予報期間の1週目、2週目、3~4週目についての多数の平均。

### 3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

**1か月平均**: 日本付近はユーラシア大陸から続きバイカル湖付近に中心を持つ正偏差に覆われている。アラスカから北アメリカ大陸東部は正偏差、日本のはるか東の太平洋中部日付変更線付近と北アメリカ大陸西部は負偏差で、波列が明瞭。持続的な寒気の南下はない見込み。

**1週目**: 日付変更線付近では明瞭な負偏差だが、東日本以東は中央アジアから続く正偏差に覆われている。このため、東北地方への強い寒気の南下はない見込み。大陸東岸は気圧の谷となっており低気圧の影響を受けやすい。東北太平洋側でも曇りや雪または雨の日がある見込み。

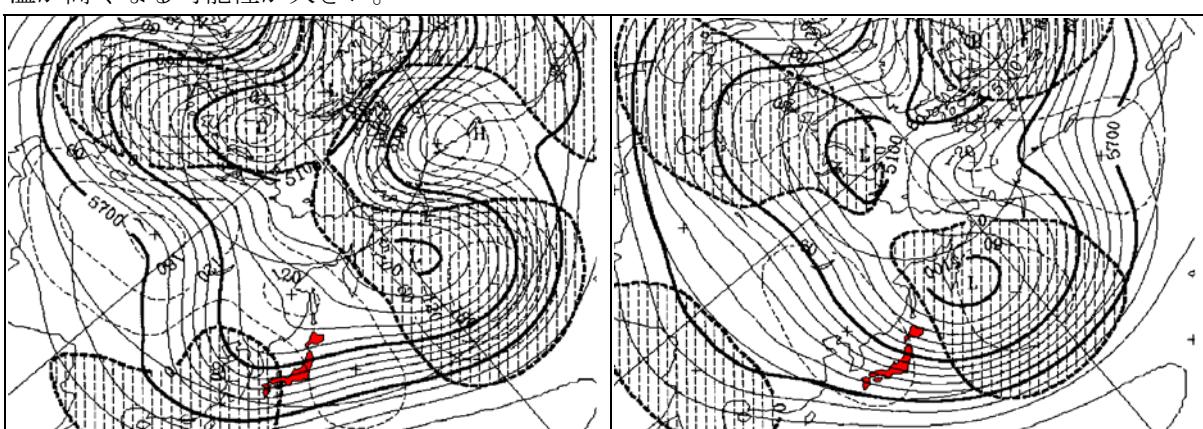
**2週目**: 月平均と同様の波列が明瞭で、日本付近は広く正偏差となる。このため、東北地方は気温が高くなる可能性が大きい。



1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ)

ただし平年差の間隔は 30m 毎)



1週目平均 500 hPa 予想天気図

2週目平均 500 hPa 予想天気図

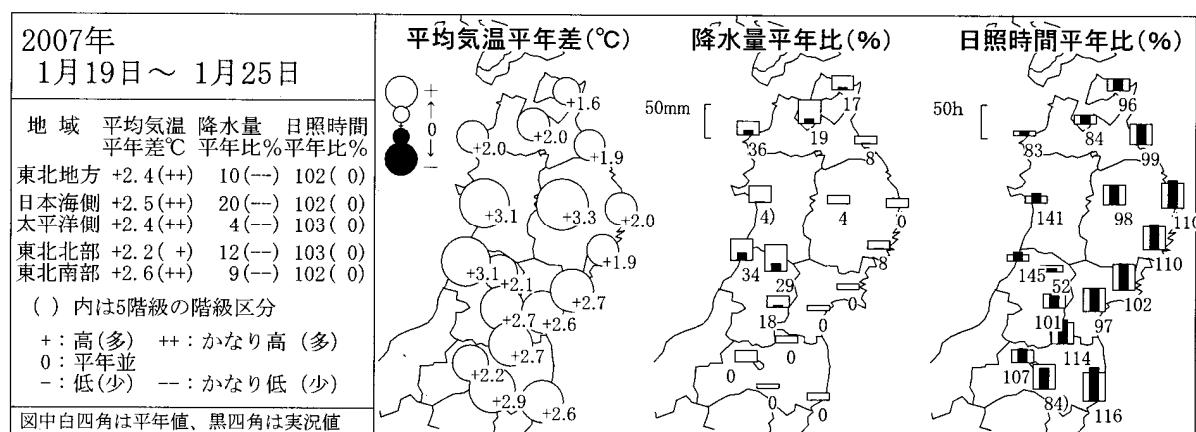
実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

### 4. 最近1週間 (1月19日～1月25日) の天候の経過

この期間、弱い冬型の気圧配置となる日が多く、また、低気圧が短い周期で日本の南岸沖を通過した。東北日本海側では曇りの日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。20日から21日には高気圧が通過し晴れのところが多かった。

平均気温は東北北部で高く、東北南部でかなり高い。降水量は東北地方でかなり少ない。日照時間は東北地方で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）